





宮原耕治・日本殉職船員顕彰会会長



久元喜造・神戸市長



井戸敏三・兵庫県知事

神戸での記録画展は、平成14年以來、今回で3回目の開催となった。会期中の8月27日には、顕彰会の宮原耕治会長が、井戸敏三兵庫県知事、久元喜造神戸市長を、表敬訪問し記録画展の経緯、神戸開催と後援の御礼等を述べた。

また、井戸兵庫県知事、久元神戸市長は、記録画展に来場され熱心に鑑賞されていた。

**戦時徴用船遭難の記録画展 神戸で開催**  
**戦時徴用船の最期 大久保一郎遺作展**

昨年8月25日から31日まで、神戸の兵庫県民アートギャラリー（兵庫県民会館）で、第40回「戦時徴用船の最期 大久保一郎遺作展」を開催した。神戸市や近隣府県はもとより、遠方からも遺族や市民、約10000人が来場し、壮絶悲惨な戦没船と船員の記録画37点と絵画のモノクロ写真12点を熱心に見入っていた。

今回の記録画展は、これまでと同様に貴重な記録画を通して、ご遺族はじめ多くの市民の皆様が戦時徴用船乗組員の悲惨な実相をお伝えし、戦争の悲惨さを実感していただき、平和の尊さを再認識してもらおうことを目的に、顕彰会が全国を巡回して開催し今回で、27カ所・40回目となった。

また今回は油彩画37点のほかに、油彩画のモノクロ写真12点（原画は現存しない）を新たに展示した。

**1000人が来場**

多くの来場者を迎えるため、顕彰会のホームページや広報誌「潮騒」での周知と海事関係団体の広報誌等に開催案内を掲載していただくとともに、ポスター、リーフレットを各行政機関、海事関係団体、船社、マスコミ等に事前に広報を行った。

昨年2月、NHK Eテレで大久保一郎画伯の絵画を通して、先の大戦で徴用された船と船員たちの悲劇を伝える「E TV特集」戦時徴用船（知られざる民間商船の悲劇）が放送された。この番組を見た方々が顕彰会のホームページを閲覧し、また、神戸新聞等に記録画の開催が紹介されたこともあり、連日の猛暑にもかかわらず、遠方から、約10000人が来場した。



大阪商船貨物船「ありぞな丸」宣伝用絵書の原画の前に、1956(昭和31)年 67歳。

**大久保一郎画伯 (1889—1976)**

- 明治22年 大阪市富島町（現在の西区川口）で生まれる。
- 大正15年 大阪商船（現株商船三井）の嘱託画家に採用、初仕事に南米移民船「らぶらた丸」を描く。以後、同社の宣伝用絵葉書、航路案内、広報誌、ポスターの絵とデザインを担当する。
- 昭和17年 大阪商船、岡田永太郎社長の命により、同社の戦時徴用船最期の記録画を描き始め、終戦までに油彩30点約80点を制作する。
- 昭和51年 1月19日自宅にて死去、享年86歳。
- 昭和57年 旧大阪商船本社倉庫で大久保画伯の遺作37点が発見され、絵画修復家黒江光彦氏により修復。12月に東京日本橋・三越本店で第1回記録画展を開催。6日間の来場者は9000人。

# 記録画から受けた感動・感想

来場された400人の方々からアンケートが寄せられ、記録画から受けた感動・感想が綴られた数は、317通に上る。

その来場の動機と感想の一部を紹介する。

## 10代の驚き

●女性 新聞を見て

心が重くなるものや、船と運命を共にする乗組員、敵兵を助ける姿、等いろいろな乗組員の姿を見て何とも言えない気持ちになった。敬意や苦しさを、怖さがぐるぐると。もっと戦争を知り、少しでも深く、理解できるようにになりたいと思った。また、このような展覧会を開いてほしいです。



家族で来場した姉妹。絵から船が飛び出してきたそう、と話していた。

●男性 (奈良県) NHKを見て

聞いただけで、あんなすごい絵を描けるのはすごいと思った。すごく感動した。

●男性 県民会館に来て

いろんな船が資源を運んだり、役割を果たすためにがんばっているのが、良くわかりました。

## 20代の学び

●男性 NHKを見て

NHKのドキュメンタリーで、この遺作展を知りました。戦時徴用船が実際にどのような戦いで沈んで行ったのか、なかなかメディア等で見かけることはありませんから、こうして実際に絵画を見る機会を得ることができ幸いでした。ごく当たり前の事ではありますが、戦争で亡くなった人々というのは軍人だけではなく、民間人がなくなったという事に思いが至りました。もっと多くの人に、この展示の絵画を見て頂きたいものです。

●女性 友人・知人・家族から

戦争を船の視点から考える事が減りません。戦場で戦っている軍人さんはもちろん、輸送船や病院船も本当に戦争は人の命を簡単に奪うん



大久保一郎画伯の長女 大久保圭子さん。

## 30代の印象

●男性 NHKを見て

だなあ。と悲しくなりました。絵はとでも迫力がありビデオを含めても少し時間があれば、ゆっくり観たかったのに残念です。絶対に風化させてはいけないと思いました。こうした機会を作ってくださいって本当にありがとうございます。(船の名前がぶら志る丸とか外国の名前が結構多くて意外でした)

●男性 NHKを見て

今年の2月にたまたま見た、大久保画伯の戦時徴用船の最期の絵を特集したE.T.V特集の番組を見て、戦時徴用船について大変関心を持ちました。当時の乗組員の証言を基に描かれたこの事で、お話だけで描くという条件にも関わらず、大変驚くべき表現に心を奪われテレビに見入りま

した。翌日、靖國神社へ祖父の死去を、英霊となった祖父の兄弟(大伯父)に報告し参拝の予定でしたので、より見入ったのかもわかりません。

中でもぶら志る丸の大野船長のご最期を描いた画、米軍の潜水艦に機銃掃射されている画、戦時標準船が雷撃を受け材料がもろいが由にまっ二つに折れ沈んだ画、大変印象的でした。

大戦中の代表的な事柄として、広島、長崎、沖縄、各都市の大空襲や特攻隊などが取り上げられがちですが、この様に徴用され殉職された多くの船員の方々がいらっしやることはほとんど周知されていません。

もっとこの絵画を多くの方々にご覧いただく機会を増していただき、より多くの方々を知っていただきたいと思います。不思議な縁と申しま

すか、今年、興味を持った絵画を直接目に触れる機会にめぐり会えた事に大変感謝申し上げます。亡くなられた船員の方々のご冥福をお祈りするとともに、後世にこの悲劇を語り継いでいける事を切に願います。

●女性 (兵庫県) 学校の紹介

とても勉強になりました。今、教員として小学6年生を受け持ち、戦争について教える立場にいます。事実を知り、二度と戦争を繰り返さないということ、伝えたい、分かっ



NHKの番組を見て、顕彰会のホームページで調べ、奈良県から来場した、玉井修平(16)くん、直都(10)くん兄弟。

●男性(千葉県) NHKを見て

戦時徴用船については、以前からそのことを知っていました。その最期を記録した絵画が残されていることは、先日のNHKスペシャルにて初めて知り、今回拝見することが出来ました。大変に悲しくも、意義深い絵画でありますので、今後も保存と公開を続けて頂きたいと存じます。

●女性 友人・知人・家族に聞いて

「政府が自衛隊員の戦時の移動に船舶を使用する際の為、民間船員を予備自衛隊員とする計画がある」との報道がある今、こういった展示はとても重要だと思ふ。「平和は作ることも難しいが、保つことはそれよりも困難だ」という言葉がある。先の戦争のような悲惨なことが再び起こらないよう、若者も「昔のことだ」と他人事と思わず、こういった展示を見て、平和の尊さと戦争の悲惨さを胸に刻んでほしい。

●男性(福岡県) NHKを見て

戦時徴用船について知ったのは数年前で、絵画がある事を知ったのは今年のEテレの放映でした。今年の展示が神戸と知り足を運んで来ましたが、一枚一枚の絵から平和の時代しか知らない私には、どこまでくみ取れるかわからないほどの事実と重みを感じました。先の大戦については、とにかく軍の行動ばかりに注目が向けられますが、こういった戦時徴用船などの悲劇についても、決して忘れることなく未来に引き継いでいきたいです。

40代の感想

●女性(兵庫県) 家族から聞いて

義父がこの遺作展に足を運ぶことを知り、「私も行きたい！」と参りました。

船会社に勤務していた義父は、船の特徴、船名から伺える会社等、色々話してくれました。

私の祖父は、海軍の病院船で帰国しましたが「順番を一つ、怪我人に譲って、無事生きて帰った。譲った船は攻撃され、全員死亡した」と、話していたことを思い出し、絵の中やその奥にある数々の命に、胸が締め付けられる思いになり、涙がこみ上げてまいりました。

家族に秘密にしても、絵を書き続けた大久保画伯、修復された黒江氏、そして「書き残す判断」をした、

岡田社長に敬意をはらうと共に、戦争のない世界が一日も早く訪れる事を切に願います。

●男性(兵庫県) テレビを見て

私の父は、昭和3年島根県の貧しい農家の三男に生まれました。生活の為に、昭和18年佐賀県の海員学校に入校しましたが、訓練は大変厳しかった様子で、今でも良い思い出はなかったみたいです。

昭和19年大阪商船の乗組員として働き始めました。

昭和19年9月28日? (日にちがはっきりしません)午前7時28分ごろ、マレー半島から軍需物資を満載した徴用船に乗組員として乗船していた父は、魚雷で叩き起こされました。

輝とライフジャケットで部屋を飛び出し無我夢中で船外へ脱出したそうです。夕方まで漂流して駆逐艦に救助されフィリピンに上陸しました。

フィリピンから日本に向けて再び徴用船に乗務しましたが、フィリピンと台湾の間地点でアメリカ軍の空襲に遭い、近くの島に座礁して助かったそうです。迎えが来るまで島で待機している時に伝染病にかかり、激しい下痢に襲われました。台湾から迎えの船がやってきたときは、這いつくばって乗船したそうです。その後無事、台湾の高雄へ入港することが出来、陸軍病院に入院することから

病状が回復してから下関に向かう船に乗り、下関から鉄

林 寛司さん (兵庫県明石市)



長年、戦時中の艦艇・商船の行動、被害を調査。「日本艦船戦時日誌(上・下巻)」「戦時日本船名録(11巻)」を編集、発行された。

道で大阪まで行き、会社に出社したそうです。戦争が終わるまでは、島根と隠岐を結ぶ船で働き、終戦後は大阪商船に戻りました。昭和59年まで、機関士としてほとんど船で過ごして定年を迎えました。

今年、神戸で開催されることを知り、父を連れて見に行こうと思った矢先、病に倒れました。入院した影響で認知症を発症して普通の生活がおくる事が出来なくなり、現在施設でお世話になっていきます。

父が元気な時は、ほとんど戦争の話はしませんでした。認知症になってからは、記憶が甦ったかのようによく話をします。

戦時徴用船に関係した方々は、父と同様に高齢化となり次の世代へ伝える事が難しくなってきました。



菊地幸司さん(横浜市)

NHKの番組を見て顕彰会に、戦時の情報等の問合せがあった。

父は、大連汽船「崙山丸」の船長をしていました。昭和19年2月に帰路、沖縄西海で米潜水艦に撃沈され戦死しましたが、軍海軍局から一片の電報を受け取りました。木で鼻をくくったような文章でした。乗船の軍人の話もありましたがが気休め程度のものでした。今回、NHK・E・T・Vが縁で顕彰会の活動と父の殉職の記録を詳細に教えて頂き、なんだか(変な表現ですが)ほっとした気持ちになりました。父の死に立ち会うことが出来なかった自分には、夢の中で父がまだ生きている気持ちになることが度々ありました。犬死のようなかたちで海の底に未だに沈んでいる姿を見ることがありました。

50代の想い

●男性(京都府) HPを見て

非常に興味深く拝見させて頂きました。かの戦争に対する評価、解釈は個人個人の判断なのでしょうが、こういった事実があったということは、とどめおこななくてはならないと思います。そういった意味では、この展示画は記録絵画として重要な価値があると思います。

もう一つ考えがおよぶものは、大久保画伯と船員とのやりとりです。死の恐怖を生き抜いた船員と大久保画伯は、暗いアトリエの中で、どのような時間を共有したのでしょうか。まさに迫真の筆致でした。

●男性 知人から聞いて

先の大戦に関しては、広島・長崎の原爆、特攻隊、学徒出陣、沖縄戦などで多くの市民、徴兵された軍人・軍属らが命を落としたことは誰もが知っています。一方で国家総動員法の下、多数の民間船が戦時徴用され、多くの民間船員が犠牲になったことはあまり知られてない。

絵画展を通じ、大戦での「埋もれた悲劇」を語り伝えていくことは、歴史を正しく理解し、恒久平和を願う上で、極めて有意義だと思ふ。

●女性 顕彰会の案内で

当時の妻まじさ、再びふるさとの地を踏みしめたかったであろう、との思いを感じました。犠牲のもとに

今の自分達の幸せがあると思う時、本当に二度とこんな戦争を起こしてはいけない、不幸しかないと思いません。自分達も命を粗末にすることなく良い社会を築いていかななくてはならないと思います。良く描きとめて下さったもの、発見されたもの、顕彰会の方々ありがとうございます。大勢の方に感謝いたします。



叔父さんが、錦江丸乗船中、撃沈され悲惨な経験をされている。坂元 淳さんご夫妻(相生市)。



大阪商船「はんぶるぐ丸」の戦没船員ご遺族、伊藤 哲さんご夫妻。名古屋から来場された。



DVD「太平洋シーレーン作戦」「第40回戦没・殉職船員追悼式」を熱心に見入る来場者の皆さん。

●女性 NHKを見て

○何もなかったように過ごしてきた戦後…。次々に淡々と事実が明らかにされると、今が戦前であるという強い思いがわいてくる。国家とは何でしょうか。なぜ戦争は繰り返されるのでしょうか。考えれば考えるほど…まじめに誠意を尽くして日々過ごしていることを自負する者には全くわからないです。

○それにしても、失われた記録画が多数あることは残念です。損傷激しいものは処分されたとのこと、戦中、戦後を通して「沈黙」するしかなかった日本の体質(教育)が、やはり今の国家の土台となっているのですね。○毎年の開催にあたり、尽力されている方々に感謝申し上げます。どこかの港(常時展示)に、どの船(絵画)も錨をおろせるようになればと…願うばかりです。



市川武夫さん。お父さんが日本郵船「鎌倉丸」に乗船中、米潜の雷撃により沈没、戦死された。

60代の憤り

●男性（兵庫県）顕彰会のHPで

一年前より、昭和19年1月にニューブリテン島ツルブで戦死した、陸軍軍曹の伯父のことを調べており、戦友会戦記を読むうち印象深い記述に出会いました。船舶工兵の上原敏の話に続けて、ある徴用漁船の話でした。その漁船は高知県出身でしかも夫婦で乗り組んでいたとのこと、18年後半からはビスマルク海でまともな輸送が行われなくなり、大発や徴用漁船を使い、ニューブリテン島北岸やダンピール、ビチアズ海峡を経てニューギニア方面の補給にあたっており、多くの輸送船が沈められたために、小規模・沿岸航送を大発や徴用漁船（殆んど無兵装）が使われました。その徴用漁船の夫婦の消息は分かりませんが、恐らくは…。

「日本の兵隊はよく頑張った」という評価がありますが、軍属も徴用もよく頑張ったのです。戦争開始の経緯・開戦の決断・降伏の決断時期、全てが間違っていたとしか言いようがありません。徴用船員の方々が一等下に見られ、報いられることが少なかったこと、遺族の御苦労をおもうと心が痛みます。

●男性（兵庫県）新聞を見て

絵はとても良く描かれています。内容はとても残酷です。乗組員は日本を守るために戦ったのではない、日本政府に殺されたのだと思います。こうした状況は、日本人一人一人が知るべきです。

今、集団的自衛権の問題がありますが、再びこのような悲劇が無いように国民が考えるべきだと思います。

この戦争で亡くなった人は、どういう思いで死んでいったのでしょうか。生き残った人で、その人の代弁をして後世に残せたらと思います。

●女性（大阪府）NHKを見て

NHK ETV特集「戦時徴用船」を観て大変感銘を受け、その後ネットサイトで「戦没した船と海員の資料館」のHPを見つけ、予備知識を得て、6月に初めて資料館を見学させていただきました。資料館では詳細にわたって資料の展示があり、太平洋の大海原で民間人の犠牲の多さに心が痛みましたが、今回、大久保一郎さんが描かれた絵画を拝見して、



神戸商船大学1期生の皆さん  
左から中林正人さん、高寄 伸さん、井上篤次郎さん、若村保二郎さん、板坂 満さん。

戦没した瞬間その場にいた人の声や息づかいが聞こえてくるようでした。その人の人格がすべて現れる最後の尊厳に満ちた時間を描かれた大久保さんに感謝しています。日本人の一人として襟を正さなければと改めて思っています。

●女性（兵庫県）神戸新聞を見て

聞き取りだけで描かれたとは思われないほど、迫力にあふれ当時の大変な様子が伝わります。私は戦後生まれですが、祖父母から両親から話は聞かされています。

戦争は不幸です。戦後生まれの人間、若い人達に多く、この絵から戦争の悲惨さを知ってもらうことが大切なことだと思います。



深川初恵（96歳）さん（元日本赤十字社看護婦）は、ご家族と高知県から来場された。

私は、日本赤十字社の従軍看護婦として、昭和13年高知陸軍病院を始めとし14年8月、六甲丸に乗船、波の上丸、志あとの丸、ぶえのすあいれす丸と17年2月まで船上奉公をいたし、次いで鹿島丸という大きな御用船にてビルマへ向かいました。18年、病のため内地へ。うらる丸、ぶえのすあいれす丸のお世話になりましたが、台湾海峡でぶえのすあいれす丸は魚雷攻撃を受け、その時も私は助かりました。本当に私にとりましてぶえのすあいれす丸は忘れることのできない悲喜交々の思い出のある船でした。その船をバックに96歳まで生きて来た私と写真に収めて頂いたことは私の宝物です。時々眺めて涙し幾十年昔を思い出しています。ありがとうございます。（写真のお礼の手紙より）



来見明信さん。祖父は軍人で「富山丸」に乗船中、米潜の雷撃で戦死された。

70代の怒り

●男性（愛知県）顕彰会の案内で

とても貴重な絵画を展示して頂き、多くの関係ある人々に見せて頂きありがとうございます。とても感謝いたします。

とてもリアルな表現に実感がわいて参ります。この絵を見せて頂き、とても悲しみがこみあげて来ます。

画集（戦時徴用船の最期）では、何度も見せて頂いておりますが、直筆の絵は初めて見せて頂きました。

今後ご苦労をおかけ致しますが、良く保存いただき、多くの人に見せていただける機会を、なるべくたくさん与えて頂きますよう勝手なお願いをいたします。ありがとうございます。

●男性（岡山県）知人から聞いて

陸海軍の兵隊より死亡率では倍近くの人命を失った商船の船員、撃沈



元大阪商船三井船舶の阿曾澄子さん（左）と佐野禎子さん（右）。

●男性（兵庫県）新聞を見て

私の父方兄弟も20代から船員生活をしていました関係、子どもの頃から戦争の状況を教わりましたので、今回の展示会に足を運びました。父は日本郵船所属で赤城丸、千歳丸、氷川丸等々、乗組員でした。

される本船の生々しい絵画にそのリアリティーな表現は胸詰まる思いです。私も昭和30年代から40年代まで、大阪商船の船員でしたが、大勢の先輩たちが戦禍に巻き込まれ、任務遂行の途中で落命せざるを得なかったことは、胸張り裂ける思いです。岡田社長が大久保画伯に依頼して聞き取りにより描かれた絵は、写真以上に訴えるものがあります。国にとつても、わが国海運界にとつても大変貴重な資料であり末永く保存されることを望みます。



絵の説明に熱心に聞き入る、大久保画伯の長女・圭子さん。



大久保画伯の長女・圭子さんの友人の布田幸子さん。

戦争で何度も海に投げ出され、マラリア等で呉の病院に入院等々、色々話を聞き絶対に戦争はしてはならないと子供の頃から、心に固く決めていました。親族も南方で戦死しています。今回展示会に参加させてもらい、次の世代に伝えて行きたいです。

80代の嘆き

●男性（兵庫県）神戸新聞を見て

何回見ても身につまされる絵ばかりです。守ってくれる軍隊もなく、敵の中へただ1隻で移動する輸送船・・・。この中で敵乗員を救うボートの船員、素晴らしい人間愛に感動した。戦争の悲惨さ、残酷さ、こんなことを再び繰り返していいのだろうか、政治は再び、元来た道を行くべきでない。

●男性（大阪府）知人から聞いて

何回拝見しても胸つまる思いがします。昭和初期を思わせる最近の世相に胸が痛みます。日本のみならず世界の政治家・リーダーが全く戦後世代の人たちに代わってしまった。今、この絵が持つ重みを、是非皆さんに感じ取ってほしいものです。



今回は、油彩画37点のほかに、油彩画のモノクロ写真（原画は現存しない）12点を展示した。



道家康之助さん。兄が日本郵船「浅間丸」乗船中に潜水艦の雷撃で戦死された。

●男性（兵庫県）神戸新聞を見て

私の叔父が「ぶら志る丸」に乗船しており、お披露目で神戸港に停泊船の中を案内され船内の豪華なのに驚いたものです。間もなく大戦始まり、どうやら徴用船になったと聞いていました。今日の展示であの立派だった船が撃沈された詳細を観、啞然、叔父は海上漂流約1週間食べるものが無く、トランクの皮を薄く剥ぎ食べた、あまり、それ以上詳しいことは語ってくれませんでした。その後、中国の漢口にあった偕行社に勤務、戦後、「熊野丸」に乗り、引揚に従事したと、その叔父も今は亡くなりましたが、私にとって「ぶら志る丸」は特に印象に残っています。私も昭和20年、徴兵検査を受け待機中に敗戦となり命長らえ、今日に至っております。今日は改めて感銘を受けました。絶対に戦争をしては

なりません。亡くなられた船員の方々のご冥福を祈念いたします。合掌

●女性（兵庫県）顕彰会の案内で

私が父と別れた最後のことを、何故か子ども心に覚えております。あの頃は、戦争の恐ろしさを知らず父と今、別れてもまたすぐ帰って来てくれると考えたからでしょうか。

私が長女だったから、父が帰って来る日まで母を助けて、弟や妹の事をしっかり守ってあげようと父と約束をしました。母から聞いた言葉は、広報による父の戦死でした。

私が、今一人になってみて、あの頃の父の気持ちを考えてみると、44歳の父。どんなにか苦しくて、いろいろな事、考えただろうと、悲しさ一杯です。

今、私はあの頃の父の年齢をこえた息子たちに、どんな形で受けとめてもらえるかと考えております。



記録画展で、お手伝い頂いた「戦没した船と海員の資料館」の岡村世紀一さん（右）と大井田孝さん（左）。

●男性（兵庫県）神戸新聞を見て

私の父は、昭和17年5月8日、日本郵船の「大洋丸」にてマレー半島のペナンに赴く途中、遭難、死亡しました。

今回の展覧会の画の中にはなかったが、他の画を見ることよって偲ぶことは出来た。土木技師としてペナンの錫鉱山の開発の命を受け、軍属として壮途の途次の戦没死はさぞかし無念であったと思う。

工場動員、空襲、etc体験者として戦争の愚かさを痛感している。病院船への攻撃、一般市民への空襲、etc、ルールを無視した攻撃の惨たらしさをシベリアの抑留とも忘れてはならない。

最近、テレビや新聞に戦争の真実が部分的にはほんの少しだけ述べられてきたものの、まだまだほど遠いもの、悲しいやら、くやししいやらの思いをもちます。

●女性（兵庫県）神戸新聞を見て

私は、国民学校1年生（小学校1年生）の12月8日に、大東亜戦争が始まったこと、ニュース映画で日本軍が勝利していること、いつの間にか本土上空に敵機が飛来し、3月17日の神戸大空襲で家は焼失しました。5年生の8月15日敗戦となり、子どもなりに苦しい生活を耐えて来て、現在は幸福です。本日、徴用船の最期を見せていただいたて胸が痛くなりました。

●男性（兵庫県）知人の紹介で

戦争を体験した人間にとって、如何に戦争とはむなしなものかと改めて思い知ります。父もジャワ沖で（徴用船員として）空爆に遭いましたが、運よく助かって昭和21年夏に帰国いたしました。

私自身も北朝鮮で終戦を迎え、一年間、ロシア兵と暮らし、21年春、38度線を歩いて突破し、やっと日本に帰って来ました。とにかく、人間同士が無駄な殺し合いをしなげなければならないという事、それでどれだけ沢山の人が死んでいったのか、この絵を見て涙が出ます。

佐藤明雄甲南大学名誉教授

大戦中、当時の優秀な商船が撃沈され記憶から忘れ去られているのを残念に思い、遭難船のペーパークラフトを製作し続けておられます。



佐藤明雄さんが製作した、大阪商船「ぶら志る丸」のペーパークラフト。

## 戦没船員の功績等の調査 事例紹介

本会の事業の一つに戦没船員の功績等の調査があります。先の大戦において戦時徴用船で輸送業務にあたり、尊い命を犠牲にされた戦没船員は分かっているだけで6万6099人のぼり、横須賀市の神奈川県立観音崎公園にある「戦没船員の碑」には名簿が奉安され、毎年5月中旬に追悼式典が盛大に営まれています。

ご遺族をはじめ親類縁者や関係者の中には、いまだ知らない方々も多く、戦没の状況まで知っている方は、さらに少ないといえます。本会は、こうした方々からの問い合わせにお応えし、調査情報の提供を日常の業務として行っています。その中から本号でも事例のいくつかを紹介します。

### ■男性（兵庫県西宮市）

私は戦没船員の甥で77歳になる者です。戦没者の氏名から①戦没した時期②乗船していた船名③戦没した地区などがお分かりになればご教示いただければ幸いです。

戦没したおおよその時期は昭和20年で海域は比較的日本に近いところと聞いております。

これらの情報をいただければ神戸市にある「戦没した船と海員の資料館」で船の写真等を拝見したいと思っています。（メール）

### 【回答】

伯父様は、当会の戦没船員データにそのお名前があります。

横須賀市の観音崎公園にあります「戦没船員の碑」に名簿が奉安されております。当会では、毎年「戦没船員の碑」において追悼式を挙行しております。

伯父様はD汽船丁丸に乗船中に戦

没されています。丁丸の資料等を別便でお送りいたします。（メール）

### 【お礼】

この度は早速、伯父の戦没に関する一連の詳細な資料をお送り下され、誠にありがとうございます。

今まで私の亡父（伯父の弟）などから、ある程度の事は聞いておりましたが、詳しいことは私には不明のままでした（私の記憶が薄れてきたこともありすが）。

先の大戦では、民間の船員の方々だけでも6万人以上が犠牲になられたとのこと、本当に心が痛みます。

伯父も、もう数カ月で終戦という時期に亡くなったことは、今さらながら残念な思いが募ってきます。

折角貴重な情報（船名、会社名、戦没時期）をいただきましたので、神戸市の資料館にも近々訪れて船影なども確認してみたいと思います。

貴会の「しおり」には会員制度の

紹介がありますが、私も少額の協賛会員にならさせていただけると思っています。申込書などがありましたらご送付くださるようお願い致します。簡単ながら、御礼申し上げます。

### ■男性（千葉県佐倉市）

私は、昭和20年3月6日生まれで、父が終戦直前に輸送船の機関長をしている時に、船が撃沈された（4月頃）としか母に聞かされていませんでした。昨日知人から貴会のことを知り、父に関する資料があればコピーを是非頂きたいと思いメールしました。母および長姉、長兄も既に亡くなっており、乗っていた船名などはわかりません。（メール）

### 【回答】

お父上に関する資料をご要望とのことですが、お父上は昭和20年4月14日、D汽船丁丸乗船中に戦没されています。

横須賀市の観音崎公園にあります「戦没船員の碑」に名簿が奉安されております。当会では、毎年「戦没船員の碑」において追悼式を挙行しております。

丁丸の資料等を別便でお送りいたします。（メール）

### ■男性（福岡県福岡市）

小生の母方の祖父はN社で通信士を務めておりましたが、先の大戦の末期に戦没したと母から聞いております。祖父の最期がどのようなものであったか、またできることなら慰

霊に詣でたいと思い、ネット検索をしていたところ、このHPにたどり着きました。もし貴会で何らかの情報をお持ちでしたら、ご教示頂けると幸甚です。（メール）

### 【回答】

おじい様は、N社のK丸乗船中の昭和19年7月、基隆より関門港向け航行中に米潜水艦の魚雷攻撃により戦死されています。

おじい様は、横須賀市の観音崎公園にあります「戦没船員の碑」に名簿が奉安されております。

また、K丸の関係資料をお送りいたします。

### ■女性（宮城県仙台市）

戦没船員ご遺族から、戦没・殉職船員追悼式に参列された後に、電話で従兄が戦死しているが船員なのか軍人なのか判然としないが、もし当時の状況がわかれば調べてほしいとの要請があった。

### 【回答】

戦没船員データにお名前が無いことから、靖國神社に問い合わせた結果、海軍水兵長として乗艦していた所属部隊「第三十三海防艦」で戦死されていることがわかった。

「第三十三海防艦」は「戦艦大和」沖繩出撃の前路掃蕩を命ぜられ種子島東方で、多数の米軍機と交戦し、轟沈、全員が戦死されている。

関係資料を送付したところ、お礼のお手紙が寄せられた。

# 観音崎公園 戦没船員の碑

## 海の日清掃・献花式 横須賀海洋少年団

「海の日」の行事として横須賀海洋少年団恒例の「戦没船員の碑」清掃と献花式が昨年7月20日に行われた。強い日差しが照りつける猛暑の中、観音崎公園に集まったのは、小1から高1までの横須賀海洋少年団と大和海洋少年団の団員12人と保護者、指導者ら約30人。これに顕彰会と海事関係者が加わって、汗だくになりながら1時間余り清掃した。辺りが清められると「戦没船員の碑」に全員で黙とうを捧げ、一人ずつ白菊を献花した。

横須賀海洋少年団には、海上自衛隊横須賀地方総監部、横須賀土木事務所とともに、第一回追悼式からご支援・ご協力をいただいている。▽団員から活動などについて、話を聞いた。



慰霊碑と周辺を清掃した後、献花式のセレモニーで整列する海洋少年団の皆さん。



■長島 聖瑛くん

入団3年目です。カヤックの他にカッターの訓練もあります。団員の数が多いので大変です。また、カッターのオールが大きくて重いので、二人で漕ぎますがきついです。



■加藤 麗来さん

中1

海洋少年団の訓練は楽しいので、しばらくは団員を続けたいと思っています。

一人乗りのカヤックで練習中に、引き波が強くてカヤックに乗れずに流されそうになりました。

小3

町内会の清掃作業でも、少年団で活動しているからすぐにとけこめて、楽しく作業ができます。

今年をはじめ参加しました。小学1年生だからまだ何もわからないです。



■吉川 諒くん

小1

カッターはカヤックとくらべたら大型です。中学1年なのでオールは一人で漕ぎます。



■久保田 新くん

中1

カヤックは一人で自由に動けるので好きです。ヨットのシングルに乗っている時に、沖へ流されそうになりました。団長さんや指導員があわててかけて助けてくれたのでホッとしました。



■石井 渚紗さん

高1

「戦没船員の碑」清掃活動に参加した団員の皆さんに、感謝の記念品を今回もたくさんご提供いただきました。子供たちは大喜びで「ありがとうございます」と声高らかにお礼を述べていました。

ご提供いただいた会社、海事団体は次のとおりです。(順不同)  
ご協力ありがとうございました。

- 日本郵船・商船三井・川崎汽船・日本海洋事業・日本船主協会・日本水産会・日本内航海運組合総連合会・日本海事広報協会・日本水路協会・日本中小型造船協会・日本倉庫協会・第一管区海上保安本部海上保安大学校同窓会・エスカル横浜・全日本海員組合・全日本海員福祉センター



■加藤 将師くん

高1

海洋少年団の県大会があり、他の団の団員とすぐの友達になれるので、これが楽しいです。カッターはみんなの動きが合わないと思いません。

ご協力  
ありがとうございました



記念品を手に、みんなで記念撮影。

ることに苦労します。小学校低学年にロープワーク（結索）を教えているが、ロープのひねり方や、差し込み方がなかなか出来ません。人に物を教えるのはむずかしいと思っています。



大園 裕也くん



長島 崇瑛くん

小3  
今年で3回目  
目の参加です。清掃作業は好きです。

高3  
団員を卒業して指導員です。団員への指示や、事故を起こさないように気を配



戦没船員の碑に、全員で黙とう。



汗だくで、清掃。



デッキブラシで、ていねいに水洗い。

## 殉職船員遺族援護 ～遺児たちを支援する制度～

### 遺族からのお便り

■大竹 初美さん（三重県）  
いつもありがとうございます。朝晩の気温が下がり秋らしい季節となってきました。

長女は、大学にもずいぶん慣れ、楽しみながら通学しています。

次女は、夏の太陽の下、テニス部の部活で、真黒に日焼けしていましたが、少しずつその日焼けも白くなり勉強も部活も頑張っています。

■阿部 悦子さん（宮城県）  
日々ありがとうございます。

10月に入り、インターンシップが始まります。緊張しているようです。クロスカントリー大会・学園祭もあり12月には修学旅行もひかえて、一日一日を大切に過ごしています。

### 返還義務のない 遺児援護事業

昭和44年設立された戦没船員の碑建立会の事業を継承して、昭和56年当会が設立されました。設立当初の殉職船員遺族援護事業は、就職の斡旋、進学相談等の心情相談的なことしかできませんでした。漁船海難遺児育英会のような、具体的な遺族援護を、海難商船船員遺児に対して行うべきではないか、との要望に応じて、日本海事財団から2億円の助成をうけて、昭和59年1月、その果

### 殉職船員遺児へ 援護金を支給

実による遺児援護事業として、援護は育英に限らず、遺児出生から義務教育終了（現在は高等学校卒業）まで援護金を支給することで、外航船員遺児13人・内航船員遺児7人を対象にスタートしました。  
遺児援護事業の対象遺児は、平成3年をピークに、減少しています。海難や労災事故はあつてはならないことですが、遺族援護の制度を知らないために苦境におかれては大変です。  
個人情報保護の関係から、対象遺児の情報が取りにくい状況下にあります。船会社や業界団体の、積極的なご協力をお願いします。

当会の事業に商船等で、殉職された船員の遺児に返還義務のない援護金を給付する制度があります。支給額は1人月額8千円のほか、入学記念品代として小学校入学時に3万円、中学校入学時と高校入学時には、それぞれ1万円を給付します。支給期間は、遺児が義務教育および高等学校を終了するまで。詳しくは、当会事務局へお問い合わせください。

なお、漁船乗組員の遺児の方は、漁船海難遺児育英会が援護事業を行っていますので、お問い合わせください。

## 皆様のご厚情に感謝申し上げます

平成26年7月1日以降、平成26年11月20日までの間に、次の方々に新たに協賛会員として加入いただきました。

また、次の皆様からご寄付をいただきました。厚く御礼申し上げます。本会の事業運営は、基本財産の運用益のほか、会員からの会費や寄付金、海運・水産・旅客船などの会社および海事関係団体からの会費や補助金などで、戦没・殉職船員の慰霊・顕彰とご遺族への援護事業を支えています。会員制度には、賛助会員と協賛会員があります。

■ 賛助会員には、「法人」と「個人」があり、年会費は◎法人賛助会費 10万円、◎個人賛助会費 1万円をお願いしています。  
■ 協賛会員は「個人」にお願いしているもので、年会費は103千円です。

### 新たな協賛会員の皆様 (順不同)

○菊地幸司様 (横浜市) ○神部淳様 (西宮市) ○神部義輝様 (佐倉市)

### 終戦記念日献花式供花料 (順不同)

○前川弘幸様 (横浜市) ○日本内航海運組合総連合会様 (東京都千代田区) ○米山隆昭様 (東京都北区) ○都竹利年雄様 (東京都杉並区)

### 戦時徴用船の最期

### 大久保一郎遺作展寄付金 (順不同)

○道家康之助様 (吹田市) ○菊地幸司様 (横浜市) ○近藤五郎様 (宝塚市) ○本平佑生様 (東京都千代田区) ○谷口敏久様 (福岡市) ○小野誠治様 (広島市) ○早川博康様 (知立市) ○宮本キヨミ様 (神戸市) ○佐塚宏隆様 (明石市) ○大野博史様 (神戸市)

### 寄付金 (順不同)

○海友会様 (高知市) ○大井田孝様 (神戸市) ○平岩聡子様 (香川県小豆郡) ○高等商船学校一期会様 (横浜市) ○猪股貞雄様 (清瀬市)

## 戦没船員の碑及び殉職船員碑の維持管理等に対する協力

本会の事業のひとつに、戦没船員の碑および殉職船員の碑の維持管理等に対する協力という事項がある。

戦没船員の碑とは、神奈川県立観音崎公園にある慰霊碑群のことで建立後、神奈川県が採納・管理している。

殉職船員の碑は全国に5百カ所余りの物故船員の碑のことで、このうち慰霊祭・追悼式を営む主催者に対して弔意をお伝えしている。

平成26年度、全国で営まれた殉職船員慰霊祭は次の5カ所で、宮原耕治会長名で献花が捧げられ、物故船員のご冥福をお祈りし、海

洋永遠の平和を祈願した。

▽ 殉職船員無縁塚慰霊祭

7月3日、北九州市門司区 真光寺、北九州海の日協賛会

▽ 物故船員慰霊祭

7月4日、赤門東福寺

▽ 「海の月間」横浜地区実行委員会

8月30日、向ヶ森慰霊碑前広場

▽ 唐桑町の殉難者慰霊碑保存会

10月23日、福岡市西公園

▽ 光雲神社、福岡海寿会

▽ 久田船長殉難112年記念祭

10月29日、石川県能登町

久田船長石碑前

久田船長顕彰会

## 終戦記念日献花式



強烈な日差しが照りつける猛暑の平成26年8月15日、神奈川県立観音崎公園「戦没船員の碑」に、宮原耕治会長はじめ前川弘幸前会長、ご遺族、前職および現職役員、評議員、海事関係者、船員OBら約50人が参列し、終戦記念日献花式を執り行った。

式典は、例年どおり日本武道館で行われた全国戦没者追悼式にあわせ執り行い、「戦没船員の碑」に献花、黙とうを捧げ、戦没船員の御霊の鎮魂と安らかなることを祈るとともに、海洋永久の平和を誓った。